

普及活動情勢報告（令和2年8月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

津野山の夏秋栽培も折り返し地点！ ～津野山地域での経営巡回実施～



チーム活動の様子

今年度、当課とＪＡで実施する津野山経営巡回も折り返し地点となりました。

８戸を対象に毎月巡回を実施しており、巡回時には、今作の出荷状況や販売実績をデータ化して農家と共有し、現在の生育や栽培経費などと照らし合わせて、これからの栽培管理方針を決めています。今月は高温期のため、「しっかり灌水をしていく」という方もおられました。

津野山地域は、出荷・販売の真っ只中です。

今後も、ＪＡと連携して、対象農家の目標達成に向けて、活動していきます。

くろしおミョウガ生産拡大プロジェクト（仮）の始動 ～農業クラスターの取組～



第１回会議の様子

ＪＡ土佐くろしお管内で農業クラスターの取組が始まりました。

７月３１日、須崎市農林水産課、ＪＡ土佐くろしお、県職員など、１４名が出席して、第１回会議を開催しました。会議では、くろしおミョウガの生産拡大に係る取組などについて熱心に協議することができました。

今後、当課としても、プロジェクトの計画案作成のため、関係機関との打合せを綿密に行い、よりよい活動となるよう支援していきます。

高収量が望める米ナスの樹姿とは？ ～茎周を基軸とした生育調査～



茎周調査の様子

ＪＡ高知県津野山なす部会では、今年度から全戸が米ナス品種「なつのすけ」の栽培を始めました。「なつのすけ」は収量と品質のバランスがとれた品種ですが、栽培初期にしっかりと樹作りをしておかないと後期に花を落としてしまう特徴があります。

そこで当課では「なつのすけ」の高収量が望める理想的な樹姿を明らかにするため、週１回の生育調査を実施しています。果菜類では茎周（茎の周りの長さ）と収量には関係があるとされているため、今回の調査では茎周と収量との関係性や茎周が増加する時期と要因などを分析しています。

今後はＪＡなどの関係機関と協議をしながら、次作に向けた樹作りの指標を作成していきます。

水やけ症を減らして最後まで取り切ろう！ ～ミョウガ目慣らし会～



水やけ症対策について
説明する普及指導員（中央奥）

7月15～21日にかけてJA土佐くろしお管内の3集出荷場でミョウガの目慣らし会が開催され、生産者のべ196人が参加しました。

当課からは令和2園芸年度の気象推移および作終盤に発生が増加する水やけ症と花蕾腐敗の対策について情報提供を行いました。

具体的な水やけ対策として灌水の調整方法（灌水量、灌水のタイミング）を周知し、生産者からは「天候不順時には灌水の終了時刻を早めてみる」といった反応がありました。

当課は今後も関係機関と協力してミョウガの安定生産に向けた支援を行っていきます。

令和2園芸年度の栽培を総括 ～ハウスししとう部会の総会を開催～



出席者は全員マスクを着用

8月12日、JA土佐くろしおハウスししとう部会の決算総会が開催され、18名の生産者が参加しました。

当課は令和2園芸年度の気象条件、調査ほにおけるハウス内の温湿度と生育などの栽培状況、令和3園芸年度についての栽培管理並びに農薬の保管と使用安全について説明しました。

コロナウイルスによる影響もあり出席者を少なくし、全員がマスクを着用していましたが、生産者からは、今作の生育状況の説明に対してうなずくなどの反応がありました。

当課は、今後もJAと連携して、シシトウの生産性向上に向け、支援します。

若手農業者等の栽培・経営管理技術のスキルアップを目指して ～農業基礎講座～



講座の様子

8月20日に須崎総合庁舎で令和2年度第1回目の農業基礎講座を開催し、若手や女性、新規就農者等21名の参加がありました。

普及指導員が講師となり、「病虫害の基礎知識」と「儲ける農業ってどんな経営？」という内容で座学を行いました。

参加者は、熱心にメモをとり、個別に病虫害に関する質問があるなど、真剣に聴講されていました。

当課では、今後2回の講座開催を予定しており、若手農業者や新規就農者、女性農業者等の農業基礎知識のレベルアップを支援していきます。